



# BUSINESS REPORT JEM TODAY

第51期 第2四半期のご報告  
(2009年4月1日から2009年9月30日まで)

## 厳しい環境に打ち勝ち、 一歩ずつ着実に回復の階段を上ってまいります

### 半導体市況は回復傾向にあるものの、厳しい状況が続きました

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

2009年度第2四半期累計期間（2009年4月1日～9月30日）の決算概況をご報告させていただきます。

当第2四半期連結累計期間の売上高は39億5千5百万円（前年同期比43.3%減）、営業損失は6億7千6百万円、経常損失は7億2千7百万円、四半期純損失は7億5千万円となりました。

当社の主要事業分野である半導体市場は、各国の景気対策により薄型テレビなどの需要が増加したため、半導体メーカー各社の業績は改善に向かいましたが、完全な需要回復とまではいきませんでした。また、顧客からの価格引下げ要請が強まったことにより、本格的な売上回復までは至らず、当初の予想どおりの厳しい結果を余儀なくされました。しかし、半導体市況は確実に上向きにあり、当社の9月の受注実績は数量ベースでいえば過去のピーク時に近い数値にまで持ち直してきております。徐々にではありますが、回復の手ごたえを感じております。

### 下期以降の飛躍に向けた下地づくりを着実に進めました

このような事業環境のもと、上期はロジックIC向け「Cタイプ」のプローブカードの拡販を重点施策として受注拡大に取り組み、順調に売上を伸ばしてまいりました。Mタイプにつきましても、メモリーIC向け「MCシリーズ」が海外大手半導体メーカーに採用されるなど、確実に量産実績を伸ばしております。Vタイプの新シリーズ、ロジックIC向け多数個同時測定用の「VTシリーズ」につきましては、国内大手半導体メーカーから好評価を得ており、下期以降の成長に期待をしております。

9月には東京エレクトロと次世代のプローブカードの共同開発に向けた覚書を交わしました。スタートしたばかりなので、詳細は決まっていますが、当社の新たな軸となる製品になることを期待しております。

上期は我慢の状況が続きましたが、飛躍に向けた下地づくりは着実に進めることができたと確信しております。

## 製品ラインアップの充実を図り、下期黒字化を目指します

下期につきましては、「Mタイプの売上確保」「Vタイプの拡販」「Cタイプの市場拡大」に力を入れていきたいと考えております。「Mタイプの売上確保」につきましては、「MCシリーズ」の量産開始に慢心することなく、安定した製造ラインの確立、品質強化、さらなる原価低減などの施策に努める一方、最終目標でもあるDRAM向け製品につきましても、今年度内のサンプル投入を目指したいと思っております。

「Vタイプの拡販」につきましては、先にお話をした新製品のVTシリーズの拡販に力を入れたいと考えております。また、既存製品である「VC(垂直接触型プローブカード)シリーズ」においては、「Mタイプ」と競合しない領域で顧客からの新たなニーズを捉えながら、市場の再発掘を進めてまいります。さらに「VS2(垂直スプリング接触型プローブカード)シリーズ」に関しては、海外の半導体メーカーへの積極販売にも取り組む考えです。

成熟製品の「Cタイプ」につきましても、高性能合金針の投入、海外生産拠点の徹底活用、生産性の向上など、競争力に磨きをかけ、さらなる市場拡大を図っていきたいと考えております。

海外子会社では、国内に先んじて業績回復が進んでおります。国内においても、これらをステップに、まずは下期の黒字化を達成するとともに、本格的な回復につなげていきたいと考えています。

## 株主の皆様へ

当社を取り巻く事業環境は厳しい状況が続いておりますが、最悪の事態は確実に脱しつつあります。また、期初から行ってきた施策が実を結びはじめておりますので、その成果を下期から次年度にかけて確実に咲かせ、再び強いJEMを復活させたいと考えております。株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

なお、株主配当につきましては、厳しい業績見通しではありますが、安定的な配当を継続するという観点から、当第2四半期は1株当たり5円とさせていただき、期末は5円を予定しております。

代表取締役社長 坂根 英生



## Innovating Global Success! ～グローバル展開へのイノベーション～

半導体デバイスメーカーの生産は一進一退の状況であり、設備投資も厳しい状況が続いています。このような状況ではありますが、当社ではMCシリーズの量産を開始するなど着実に成果を上げつつあります。また、他社との共同開発がスタートするなど、新時代に向けた新たな取り組みを開始しました。今後も中期経営計画の重点戦略に基づき活動するとともに、激変した経営環境での課題解決に取り組んでまいります。

### 中期重点戦略と経過

#### 1 Mタイプの事業化

- MCシリーズ(フラッシュメモリー向け、300mm一括タイプ)の安定受注継続
- MCシリーズ(DRAM向け、300mm一括タイプ)の開発加速

#### 2 既存製品の進化

##### Vタイプ

- VTシリーズ(ロジックIC向け、多数個同時測定用)のサンプル出荷、評価完了
- VSシリーズ(フラッシュメモリー向け)の売上堅持、コストダウン強化

#### 3 顧客満足度の向上

- 工程の見直しによる短納期化推進
- 原価低減の取り組み促進

### 東京エレクトロン株式会社との共同開発について

#### ～メモリー半導体向け次世代プローブカード～

当社の製品である「プローブカード」は、「プローバー」と呼ばれる装置などとともに半導体製造のウエハテスト工程で使用されます。東京エレクトロン株式会社は、この「プローバー」を製造しており、ウエハテストにおける様々な課題に対して当社とミーティングや情報交換を行うなどの繋がりがありました。このような中で、高度化するウエハテストや更なる検査効率の向上などの顧客ニーズに応えるためには両社の連携が必要であるとの認識で一致し、共同開発に取り組むこととなりました。共同開発にあたっては、メモリー半導体向けの次世代型プローブカードについて取り組むこととし、様々な検討を行ってまいります。

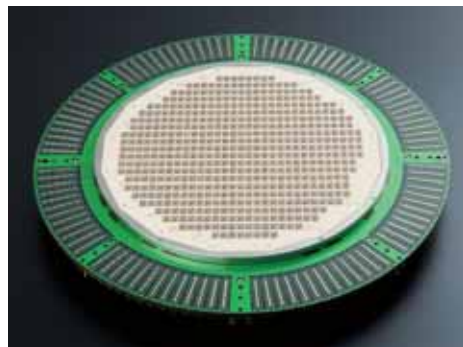
#### 東京エレクトロン株式会社の概要

本社所在地	東京都港区赤坂5丁目3番1号
設立	1963年
資本金	549億6,119万円
連結売上高	5,080億円(2008年度)
連結従業員数	10,391名(2009年3月末)
事業内容	半導体製造装置・FPD製造装置・太陽電池製造装置・コンピュータネットワーク・電子部品等の製造、販売

## TOPIC 1

## Mタイプの近況

中期経営計画の重点戦略「Mタイプ」の事業化につきましては、第1四半期に販売を開始したフラッシュメモリー向けMCシリーズを継続的に受注しています。このMCシリーズは市場規模の大きなメモリーIC向けの戦略製品として重要な役割を担う製品です。しかしながら、メモリーICを製造する半導体デバイスメーカーは、設備投資に対して厳しい引き締めを行っており、MCシリーズもさらなるコスト競争力の向上、納期短縮が必要となっています。当社はMCシリーズの製品競争力の強化に取り組むとともに、Mタイプの主要市場であるDRAM向け市場への参入を目指します。

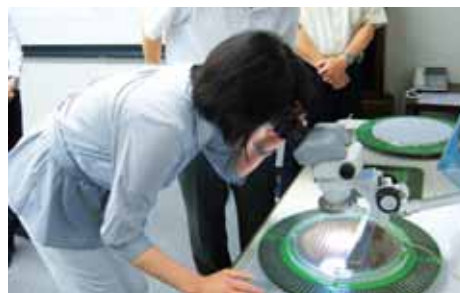


## TOPIC 2

## 尼崎市長がご来社されました

兵庫県の白井尼崎市長が当社尼崎本社にご来社されました。今回は尼崎市を支える事業所の実態について理解を深める目的のもと、市長とともに江川副市長、尼崎市産業経済局の方々もご来社。当社社長・坂根からの会社紹介の後、Mタイププローブカードや、クリーンルームなどを見学していただきました。また、プローブカードについてや、Mタイププローブカードの製造に使用されているMEMS技術\*に関する質疑応答、尼崎市における「ものづくり企業の重要性」についても意見交換させていただき、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。当社は創業50年となりますが、今後もさらに地域の発展に貢献してまいります。

※MEMS技術 ……半導体製造工程などで用いられる写真製版技術等を応用した技術



## プローブカード

# 半導体製造に欠かすことができない 当社の主力製品「プローブカード」

### プローブカードとは？

携帯音楽プレーヤー、携帯電話、薄型テレビやデジタルカメラなど、様々な分野の製品に應用が拡大されている半導体。この半導体の検査に欠かせないのが、当社の主力製品「プローブカード」です。

当社は1970年、このプローブカードの製造を日本で初めて開始。国内をはじめアジア、アメリカ、ヨーロッパの市場に製品を供給しています。プローブカードは、テストする半導体の仕様に合わせて個別に設計、製造される特注品。そのため、半導体のモデルチェンジの都度、それに応じたプローブカードが新規に製造されます。

Cタイプ(カンチレバー型)



CEシリーズ

Vタイプ(垂直型)



VSシリーズ  
(垂直スプリング接触型)

Mタイプ(MEMS型)



MCシリーズ

### プローブカードの活躍場所 ~ウエハテスト~

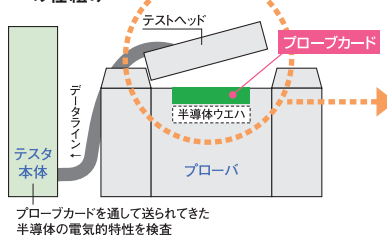
#### ■半導体の良品・不良品を判別

プローブカードは半導体の良品・不良品を判別するテスト工程で使用されます。これはシリコンウエハ上に作られた多数の半導体チップの一個一個が正しく作動するかどうかを調べるテストであり、これを『ウエハテスト』と呼びます。

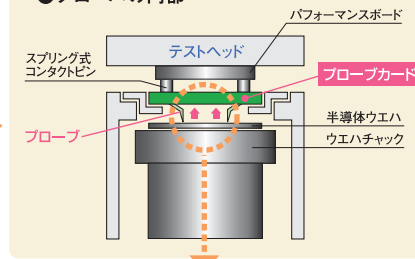
#### ■ウエハテストの流れ

テストからの電気信号をウエハ上の半導体チップの電極(ボンディングパッド)に接触しているプローブカードのプローブ(針)を通して、電気的検査を実施。ウエハ上の半導体すべての良否を判別します。

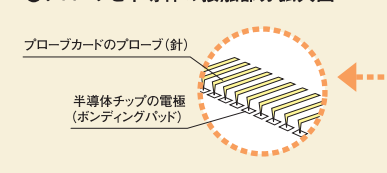
#### ●ウエハテストの仕組み



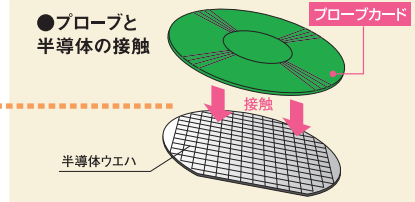
#### ●プローバの内部



#### ●プローブと半導体の接触部分拡大図



#### ●プローブと半導体の接触



## 電子管部品

### 創業以来愛され続けるJEMの電子管部品

当社は1960年の創業以来、受信管、ブラウン管用ヒーターやカソード、フィラメントなどの製造をしてきました。ブラウン管用のヒーターは時代の流れと共に終息しましたが、その技術をもとに、各種陰極・フィラメントの他、産業用・理化学用電子機器の電子銃組立てなどの顧客ニーズに対応しています。

## ネットワーク

### 世界に広がる生産・販売拠点と研究開発のグローバルイゼーション

エレクトロニクス産業の国際化に対応して、JEMでは先駆的に海外に生産・販売拠点を設けてきました。顧客に近接することにより顧客ニーズに即応することと、コスト競争力を実現するためのグローバルロジスティクスがこの背景です。JEMは、アメリカ・中国・台湾・韓国・ヨーロッパに生産・販売拠点を持ち、グローバルサポートを強力に推進しています。



# 業績・財務サマリー

## 業績の推移(連結)

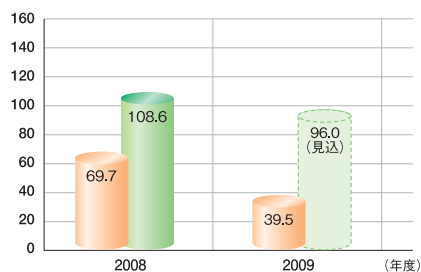
(単位:億円)

期 別 決 算 期	2007年度		2008年度		2009年度
	中間期	通期	第2四半期累計期間	通期	第2四半期累計期間
売 上 高	64.6	142.7	69.7	108.6	39.5
営 業 利 益	4.9	11.4	1.1	△ 10.7	△ 6.7
経 常 利 益	5.3	12.1	1.2	△ 11.3	△ 7.2
四 半 期 ( 当 期 ) 純 利 益	2.1	3.4	0.9	△ 14.7	△ 7.5
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	20.74	32.56	9.16	△ 139.40	△ 70.84
総 資 産	162.1	168.6	160.6	172.7	158.6
純 資 産	124.2	122.8	120.9	99.8	93.0
1株当たり純資産(円)	1,173.62	1,159.69	1,142.38	943.27	878.43

※記載金額未満は切り捨てて表示しております。

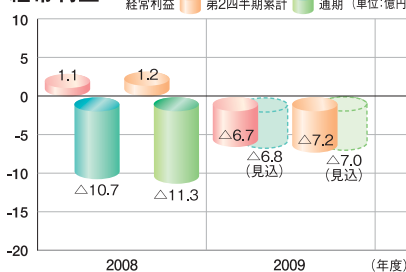
### 売上高

第2四半期累計 通期 (単位:億円)



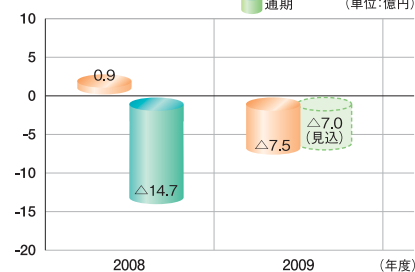
### 営業利益・ 経常利益

営業利益 第2四半期累計 通期  
経常利益 第2四半期累計 通期 (単位:億円)



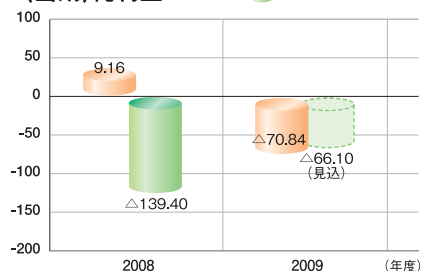
### 四半期(当期)純利益

第2四半期累計 通期 (単位:億円)



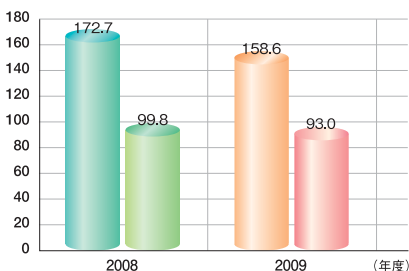
### 1株当たり四半期 (当期)純利益

第2四半期累計 通期 (単位:円)



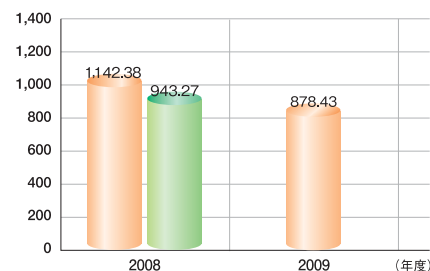
### 総資産・ 純資産

総資産通期 純資産通期  
総資産第2四半期 純資産第2四半期 (単位:億円)



### 1株当たり純資産

第2四半期 通期 (単位:円)



# 財務諸表(連結)

## 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度末 (2009年3月31日現在)	当第2四半期連結会計期間末 (2009年9月30日現在)
<b>[資産の部]</b>		
<b>流動資産</b>	<b>12,812</b>	<b>11,598</b>
現金及び預金	3,347	3,291
受取手形及び売掛金	3,327	3,653
有価証券	4,473	3,320
商品及び製品	99	70
仕掛品	248	251
原材料及び貯蔵品	590	569
その他	731	445
貸倒引当金	△ 6	△ 2
<b>固定資産</b>	<b>4,465</b>	<b>4,262</b>
有形固定資産	3,196	2,988
無形固定資産	355	397
投資その他の資産	913	876
その他	914	877
貸倒引当金	△ 0	△ 0
<b>資産合計</b>	<b>17,278</b>	<b>15,861</b>
<b>[負債の部]</b>		
<b>流動負債</b>	<b>6,183</b>	<b>4,612</b>
支払手形及び買掛金	1,120	1,396
短期借入金	3,500	2,491
1年以内償還予定の社債	—	200
1年以内返済予定の長期借入金	99	99
賞与引当金	7	5
その他	1,455	419
<b>固定負債</b>	<b>1,106</b>	<b>1,946</b>
社債	—	800
長期借入金	392	342
役員退職慰労引当金	465	449
その他	248	353
<b>負債合計</b>	<b>7,289</b>	<b>6,558</b>
<b>[純資産の部]</b>		
<b>株主資本</b>	<b>10,605</b>	<b>9,802</b>
資本金	983	983
資本剰余金	1,202	1,202
利益剰余金	8,434	7,631
自己株式	△ 15	△ 15
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△ 616</b>	<b>△ 499</b>
その他有価証券評価差額金	△ 19	△ 5
為替換算調整勘定	△ 596	△ 494
<b>純資産合計</b>	<b>9,989</b>	<b>9,302</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>17,278</b>	<b>15,861</b>

## 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期連結累計期間 (自2008年4月1日 至2008年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2009年4月1日 至2009年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>6,979</b>	<b>3,955</b>
売上原価	4,924	3,267
<b>売上総利益</b>	<b>2,054</b>	<b>687</b>
販売費及び一般管理費	1,942	1,363
<b>営業利益又は営業損失(△)</b>	<b>111</b>	<b>△ 676</b>
営業外収益	44	57
営業外費用	28	108
<b>経常利益又は経常損失(△)</b>	<b>128</b>	<b>△ 727</b>
特別損失	6	—
<b>税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)</b>	<b>122</b>	<b>△ 727</b>
法人税・住民税及び事業税	102	4
法人税等還付税額	—	△ 8
法人税等調整額	△ 77	27
<b>四半期純利益又は四半期純損失(△)</b>	<b>97</b>	<b>△ 750</b>

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期連結累計期間 (自2008年4月1日 至2008年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2009年4月1日 至2009年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	493	△ 445
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 916	△ 5,301
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 105	△ 130
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 34	29
現金及び現金同等物の増減額(△は減少額)	△ 562	△ 5,848
現金及び現金同等物の期首残高	4,257	7,179
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,694	1,330

## 株主優待制度の変更について

当社では、株主の皆様からのご支援に感謝すべく、年に一度、9月末現在の株主様を対象に株主優待を実施しています。しかしながら、昨今の経営状況を鑑み、株主優待の内容を一部変更させていただくことといたしました。優待内容が変更となる株主の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### [変更内容]

基準	変更前の内容	変更後の内容
100株以上500株未満 保有の株主様	七城のこめ 2kg	同左
500株以上1,000株未満 保有の株主様	七城のこめ 5kg	七城のこめ 2kg
1,000株以上 保有の株主様	七城のこめ 10kg	七城のこめ 5kg

※2009年9月末現在の株主様より変更後の内容となります。  
なお、お届けは12月上旬を予定しています。



## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月中  
 基準日 定時株主総会 … 3月31日  
 (その他必要があるときはあらかじめ  
 公告いたします。)  
 剰余金の配当 … 期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日

単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 大阪証券代行部  
 〒541-8502  
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 電話 ☎0120-094-777(通話料無料)  
 ホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告方法 日本経済新聞に掲載して行います。

- (注) 1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等へお問合せ下さい。  
 2. 特別口座に記録された株式に関する手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取次ぎいたします。  
 3. 未受領の配当金に関するご照会などは三菱UFJ信託銀行にお問合せ下さい。

# 株式の状況・会社概要

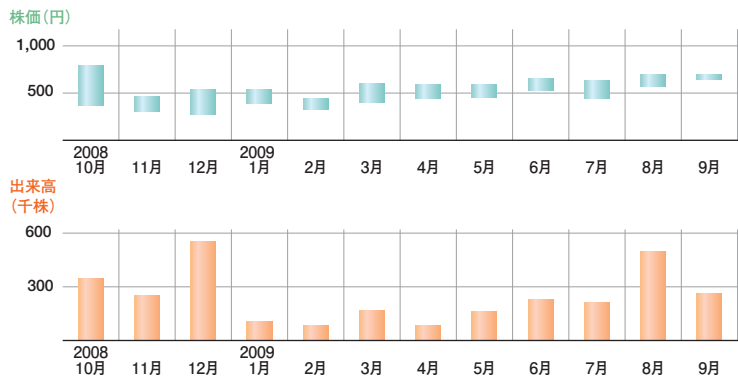
## 株式事項(2009年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 40,000,000株
- 発行済株式の総数 10,604,880株
- 株主数 6,286名

## 大株主(2009年9月30日現在)

株主名	持株数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
(有)大久保興産	1,131	10.67
ザバンクオブニューヨーク	646	6.09
大久保昌男	500	4.71
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	489	4.61
大久保和正	435	4.11
大久保英正	406	3.83
(株)三菱東京UFJ銀行	343	3.23
古山陽一	274	2.59
明治安田生命保険相互会社	171	1.61
日本マスタートラスト信託銀行(株)	170	1.61

## 株価チャート



## 会社概要

社名 日本電子材料株式会社  
 英訳名 JAPAN ELECTRONIC MATERIALS CORPORATION  
 住所 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号  
 TEL.06-6482-2007(代表)  
 設立 1960年4月6日  
 資本金 983,100千円  
 事業内容 半導体検査用部品

- Cタイププローブカード  
 プローブ(針)の形状が力学でいう片持ち梁(cantilever)の構造を持つタイプです。  
 ・CEシリーズ
- Vタイププローブカード  
 プローブ(針)の形状が垂直型で主として半導体の高集積化・高速化対応として使用されているタイプです。  
 ・VCシリーズ(垂直接触型)  
 ・VSシリーズ(垂直スプリング接触型)
- Mタイププローブカード  
 MEMS(Micro Electro Mechanical Systems)技術を用いたプローブを使用しているタイプです。  
 ・MCシリーズ
- 電子管部品
- 各種陰極、フィラメント等

株式市場 東京証券取引所市場第1部  
 証券コード 6855

## 役員(2009年9月30日現在)

取締役会長 大久保 昌 男  
 代表取締役社長 坂 根 英 生  
 代表取締役副社長 大久保 和 正  
 取締役 古 崎 新一郎  
 取締役 大 澤 茂 巳  
 取締役 足 立 安 孝  
 常勤監査役 幸 王 泰 久  
 監査役 田 村 耕 一  
 監査役 濱 田 幸 和

 **日本電子材料株式会社**  
<http://www.jem-net.co.jp>

